

成長へのステップ

⑤ 製造業

環境改善競争力復活へ

レーザー加工システム製造の片岡製作所(京都市南区)には最近、契約や製品確認のため海外の取引先が相次いで来社している。国内で生産し、アジアや欧州で販売しており、年明けから円安を追い風に受注が増加しているためだ。

「日本の製造業が厳しかった要因は円高だ」。片岡宏二社長(68)は、円安で実力を発揮できる環境になったと実感する。

海外の競合他社としてのきを削り、1ドルが80円前後の時期は「性能はいいが、値段が…」と取引先に言われてきた。コスト削減や生産効率率が格段に増すレーザー装置の開発などで乗り切ってきた。

工場稼働率も上がり、開発投資も増やした。片岡社長は「今の為替で勝てなければ、努力が足りないというところだ」と、この機に業

製品の開発、生産に忙しく働く社員。円安を機に、日本のものづくり企業の復活が期待されている(京都市南区・片岡製作所)



績拡大を目指す。

昨秋からの円安で、自動車や電器など日本の製造業が競争力を取りもどしつつある。京都でも2013年4～6月期決算で、ローム

や島津製作所などが黒字拡大や黒字転換を果たした。円安には原材料価格の高騰などマイナスの側面もあるが、独自技術に磨きをかけ生き残りを模索する中小

企業もある。

自動車のエンジン部品などを製造する平安製作所(高島市)は国内生産にこだわって、30%以上のコストカットを追求する。高精度のプレス加工技術を開発し、製造した部品や技術を海外に売り出すことも検討している。

荒木邦彦会長(73)は「原材料費が高くなっても、材料を減らす技術を築けばいい」と前向きだ。「いい物を安く作れば世界で勝てる。日本企業はもっと自信を持つべきだ」と力を込める。

新興国など海外の成長も取り込み、民間投資の拡大

製造業の復活 政府の成長戦略は「グローバル競争に勝ち抜ける製造業の復活」を掲げる。設備投資を今後3年で10%増加させることを目標に、新たな税制や予算措置などを検討する。民間投資と所得増大による持続的な経済成長を目指す。

と企業収益の改善を促し、給料アップと消費の増加につなげる。そんな好循環を政府は思い描く。

自動車のシートベルト部品などを製造する阪口製作所(京都市伏見区)は、1997年に取引先がタイに進出したのに伴い、同国に工場を建設した。成長するタイでの売り上げを源に、複雑な形状でも大量加工できる技術を磨いてきた。

同社は6月、数年ぶりに社員の給料を上げた。「消費意欲を高めることに一役買いたい」。阪口雄次社長(66)は、内需回復の必要性を強調する。

「大企業が国内でものづくりをしないと、日本の中小企業や雇用は恩恵を受けず、消費者の財布のひもも緩まない」。阪口社長は「海外に出た大企業が『日本に戻ろうか』と思う環境整備が必要だ」と、法人税減税や設備投資減税など総合的な対策を急ぐよう政府に注文をつける。(三村智哉)

＝おわり